

1922年

新型コロナウイルスへの  
感染が急拡大するなか、介  
護事業所や高齢者施設の職  
員、入所者を対象に、定期  
的な検査を独自に実施する  
自治体が増えています。ど  
んな取り組みが始まっている  
のかー。

神戸

新型コロナ対策で神戸市は  
25日から、特別養護老人ホーム  
への介護付き有料老人ホーム、  
障害者(児)入所施設の介護

## 政令市初 全額公費

職員を対象に、全額公費負担で3、4ヶ月に1回程度のサイクルで定期的なPCR検査を実施します。

で、直送は「クリスマス」(感染症集団)発生防止▽要介護度の高い高齢者等の感染により重症病床が不足する事態を防ぐとしています。

施設からの申し込み制で、直接介護にあたる職員の原則全員が対象。現時点では、市内

の特養、介護付き有料ホーム、障害入所施設計220施設、うち希望する一つの施設の約6000人が検査を受けた定です。新規入所者の検査を検討中。方法は唾液によるPCR検査です。

保育所、学校などクラスターのリスクが高い施設の職員、利用者の定期的なPCR検査を市に申し入れ、その後もうくり返し要求してきました。大きな前進ですが、今回の特養職員などへは、の検査実施は大きな前進です。同時に、全ての介護施設在宅高齢者、病院、保育所、学校なども社会的検査を広げる必要があります。入所者も全員、検査すべきです。認

## 国庫負担を求める声

不安も大きい。感染予防の徹

として、特別養護老人ホーム 00床以上のクラスターが発  
など7施設で、7月から新規 齢者は重症化リスクが高く、  
生じています。千代田区高齢 クラスターがでれば多くの命  
介護課の清水圭介さんは「高 が危険にさらされる。現場の

施設の事務職員などは対象外であり、検査対象の「いっそうの拡大を求めていきたい」と話します。

# 施設設職員定期PCR

## 東京 千代田

訪問などにも拡大

検査を始めました。介護施設へおひさし、今回で2巡回に入ります。陽性者は現在まで出ておらず、区の担当者は、直接介護に携わる職員が「もれなく検査できる体制」だと説明します。

小規模施設などでは検査が難しいことから、区が独自に設けた検査所で行います。予算は凶の独自資源です。

小規模施設などでは検査が難しこそあるが、区が独自に設けた検査所で行います。これは区の独自財源です。